

## 学校経営ビジョン

“「つながり」を学ぶ そして、学ぶことを「喜び」に”の実現を目指す学校

### ◎ つながりを学び、生かすことを通して、思考力・判断力・表現力を磨き、物事に対する見方・考え方や学ぶことを喜びと感じる心を育む。

#### 1 ICT機器を活用した授業改善及び家庭学習の充実→個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実へ

- タブレットは鉛筆、定規等と同等の学習用具として授業中の使用頻度を高めていく。また、家庭での活用（クラウド）の在り方も開拓していきたい。
- 椎葉ならではの取組として村教委が期待する村内5小の遠隔授業を、中心校として推進していくことが求められる。
- 校内研究において、「考えをもたせ、深めさせるための手立て」として、タブレットの可能性や有効性を検証していく。

#### 2 物事（人・事象）のつながりに着目した学習→意義や役割を見出そうとする学びへの転換

- ものの見方、考え方を育むためには、単発的な学習ではなく、意図的・系統的な学習を展開していく必要がある。物事（人・事象）はすべて目的や意義等により、つながりがあることを学ばせたい。そのことで、物事の本質やそれぞれのもつ役割の大切さを見出すことができると考える。これは、多様化する社会、SDGs等、未来を切り拓く子ども達に身に付けさせたい資質・能力である。

〈“つながり”を意図した学習内容例〉

- ・国語：段落どうしのつながりとその役割、文章構成、接続語、具体と抽象、物語の伏線と主題……
- ・社会：歴史、公民、交通、流通、文化、産業、国際交流……人や物がつながっているからこそ成り立つもの
- ・総合：ふるさとの文化を受け継ごう→誰から誰へ、何を、どのように、どんな思いで受け継いでできたのか調べよう…  
全教科・領域において、どの学習においても、“つながり”に着目することは難しいことではない。

#### 3 音読・暗唱及び読書の習慣化→語彙力・読解力の育成へ

- 小学生の発達の段階から、音読・暗唱は推奨したい。毎日気軽に習慣的に取り組めるよう手立てを工夫していく。
- 読書力は“究極の独学力”と言える。小学生のうちに、読書の魅力を教え、習慣を身に付けさせることが重要と考える。

#### 4 学習の基盤となる態度や能力の育成に向けた組織的取組→学びのスタンダードへ

- まずは、「聞く」を徹底して指導する。そのために、立腰は欠かせない。「椎葉っ子5つの約束」は掲げている以上、浸透で終わることなく、もっと徹底したい。よくできている児童を称賛する場、広げる手立てを工夫していきたい。
- 鉛筆の握り方、話形等、学習の基盤となる態度や能力は最小限に整理し、徹底指導を行う。一方で、「聞き方の約束」「発表の約束」を進化させるなど、児童による“守破離”も学習の中で取り組んでいくと良い。

### ★ 児童が変容しての、「指導」であり「実践」である。

- できるまで見届ける指導を行う（笑顔で励まし、できたら共に喜ぶ）
- 小さな成長を認め、伝える（可視化：Before・After→自覚に）

### ★ 継続は力なり

- 小さなことを、気軽に、短時間に、毎日こつこつと取り組む